

湖都通信



64

2010.10.1

2010年度

総会のご案内

出欠・委任は
返信用紙、メールで！
10月20日(水)必着

『湖医会賞』受賞者決定！ 2~3
私の研究 4
第49回・第50回幹事会議事録 . . . 5

学生のページ/若鮎祭 6~7
LITTLE WINDOW 8

10月23日(土) / 基礎講義実習棟2階 A講義室

13:00~14:30

第9回 湖医会賞 受賞記念講演会



— 受賞者 — 臨床・福祉領域

独立行政法人 国立がん研究センター中央病院病理科 医長

九嶋 亮治氏 (医6期生)

(詳しくは2~3ページをご覧ください)



第24回 「湖医会」 総会

15:00~

<議題>

- | | |
|----------------|--------------|
| 1, 2009年度事業報告 | 4, 2010年度予算案 |
| 2, 2009年度決算報告 | 5, その他 |
| 3, 2010年度事業計画案 | |

一人でも多くの会員のご出席をお待ちしております。尚、ご欠席の場合は、同封の委任状の提出にご協力ください。メールでもOKです。

湖医会賞

選考委員会報告

最初に、推薦人である本学医学科14期生、分子診断病理の向所賢一先生から九嶋亮治先生の経歴、候補者としての推薦理由、これらの説明を頂いた。消化器病理、特に胃型腺癌の診断病理に於ける貢献、並びに、本学在任時、国立がんセンター病理診断科就任以降、継続しての本学講義、学生実習の受入れ等、教育的貢献が説明された。

続いて選考委員より、消化管診断病理に於ける貢献度、並びに、実際臨床への貢献度について、具体的な説明の希望があった。向所先生から、旧来胃型腺腫～腺癌については異形度が乏しく誤診が多いのにも関わらず、九嶋先生らの提唱されたMUC 粘液蛋白を用いた免疫組織化学診断法が病理診断基準として日本の胃癌取扱い規約に採用され、更にはWHOの診断基準にも採用、病理学的誤診を減らすことに貢献してきている実績が説明された。また、web mediaを使った胃癌病理診断の均霏化への努力、広く実地臨床へ広めようとする九嶋先生らの努力が紹介された。そして、今後、WHOの胃癌病理診断部分の執筆担当をするであろうことも、期待とともに紹介された。

その後、推薦人の向所先生には退室頂き、野崎、島田両名誉教授、渡辺、中島、茶野の同窓会員、計5名で構成される選考委員会による審議が行なわれた。各委員から、業績、現在の position ともに大学教授相当と考えても良く、教育・学生指導、一般病理医への指導的立場など、どれも受賞相当であるという意見が出された。また、診断病理、特に消化管病理では日本のトップに近い位置であることも確認された。早期胃癌研究会の中心的メンバーとして役割を担い続け、消化器病理関係で既に高名であり、且つ、若手医師指導の意味でも重要な位置を担っていることも紹介され、今後も消化器病理の指導的立場になってゆくであろうことが期待とともに付け加えられた。最後に、業績や社会的立場だけでなく、人の調和をなさせるような人格で、人格的にも「湖医会賞受賞者」として申し分ないことが確認された。

上記審議の結果、第9回「湖医会賞」受賞者として、選考委員全員一致で九嶋亮治先生の受賞を議決した。



選考委員は次の通り(敬称略)

委員長; 渡辺一良(「湖医会」会長)

委員; 野崎光洋(「湖医会」特別会員)

島田司巳(「湖医会」特別会員)

中島滋美(「湖医会」副会長)

茶野徳宏(「湖医会」副会長)

審査の内容とは別に、選考委員から「湖医会賞」に関して、以下の提案がなされた。

今後、「湖医会賞」のより広い広告、公示により、多くの人が推薦されることが重要になってくる。そして、その中で、「湖医会賞」相当、非相当が厳格に審査されることが、重要と考える。選考委員会とは別に推薦委員会のようなものが作られ、「湖医会賞」候補者をより広く掘り起こすシステムがあると良いのではないだろうか？

上記提案を参考に、今後、「湖医会賞」の推薦、審査システムを再度見直してゆくことが内諾された。

(文責: 茶野徳宏)

第9回「湖医会賞」授与式及び受賞記念講演会

日時: 2010年10月23日(土)

13:00~14:30

場所: 基礎講義実習棟2階 A講義室

<授与式>

13:00~ 賞状・副賞授与

<受賞記念講演会>

13:30~ 九嶋亮治氏 講演

演題: 「胃生検の小部屋」から

出たところ勝負の居場所探し



独立行政法人 国立がん研究センター中央病院病理科 医長

九嶋 亮治 (医6期生)

この度は愛する母校の同窓会「湖医会」より「湖医会賞」を賜ることになり、同門の向所君と同級生の辻川君よりご推薦いただき心からのお礼を申し上げたい。歴代受賞者のように「輝ける何か」というものは無いが、一病理医として行き当たりばったり、出たところ勝負で、自分の能力・体力と相談しながら前向きにやってきたことを評価していただき感謝している。

たたき上げ鉄道員の家系に育った私にはいつの間にか鉄遺伝子が組み込まれていた。ガキの頃は少々お勉強ができると勘違いしていたので、将来は東大を卒業して、国鉄本社か運輸省に勤めることを夢見ていた。その後何故か、滋賀医科大学に進み、普通のお医者さんになるつもりであった。スキーと水泳が少しできると勘違いしていたので、スキー部と水泳部に入部し、しんどくて何度もやめようと思ったが、何とか持ちこたえた。記録らしきものは全く残っていないが、第1回琵琶湖横断遠泳大会で完泳でき、プールの建設にも参画できた。また、今でも雪上でポールをくぐることもある。

4学年の時たまたま手にした「病理医覚え書」(金子仁著、日本醫事新報社)と、当時発刊されたばかりの「病理と臨床」(文光堂)という雑誌に洗脳され「病理医」を目指すことになり母校に残った。二十数年後に「病理と臨床」誌の編集委員になるとは夢にも思わなかった。大学を卒業した1986年当時、特に関西で病理といえば

実験病理が主体で、私が学生時代に書物からイメージした病理医を育てる環境とは少し異なっていた。小学時代から鉄道がらみで社会科は好きであったが、理科の実験はどうしても好きになれず、ここは居場所ではないと感じつつも何とかしがみついていた。

胃癌の大家で、最も長く仕えた恩師、服部隆則先生も私の思いをよく理解していた。ヒトの胃癌に関し、日常診断に関連する研究内容で色々なチャンスを与えて下さるようになった。本学の卒業生としては初めてフンボルト財団の奨学生として渡独する機会にも恵まれた。ドイツの素晴らしい勉強・生活環境をひとりでも多くの滋賀医大生にも追体験してもらいたく、夏期自主研修としてマグデブルグ1名、パイロイト4名、デュッセルドルフ3名、ミュンヘン2名、ボーフム2名、ドレスデン1名、エアランゲン1名、計14名の滋賀医大生をドイツ各地の大学や病院に頼みこんで派遣した。当院にも滋賀医大生が実習に来てくれるようになった。水泳部の初代顧問教官である土井田幸郎先生からは卒業時に「学生が使う教科書に引用される仕事はホームラン」と言われていたが、その約束の一部を果たせた。また、日独の恩師のご指導により唱え続けてきた疾患概念を「胃癌取扱い規約」に掲載することができた。

1998年、近くの済生会滋賀県病院に初めての常勤病理医として勤務し、その後本学の検査部病理に移り、母校で念願の診

断病理を思う存分やろうという思いに燃えた。診断病理といっても、伝統的に標本の切り出しは外科系の先生方が行われていた。消化管ぐらひは私の力で何とかしよう画策したが、どうにも力不足。消化管の診断病理で売り出し中であるのに、マクロ観察、切り出し、病理診断、画像との対比といった「普通の作業」があまりできない欲求不満が募った。琵琶湖沿いにログハウスを建てて病理プローベを見ながら暮らそうかと半分以上本気で思っていた矢先、病理学会の休憩所で無料コーヒーを飲んでいる最中、ある高名な先生に声をかけられた。「これがヘッドハンティングか？」と一瞬ドラマの主人公の気分になった。新たな居場所をみつけて、单身関ヶ原と箱根を超えることにした。ログハウスは下町の1Rマンションに化けてしまった。

ジャスト・ファイブになり、そろそろ着地点を見つけようとしていたところであるが、またもや離陸してしまったようだ。私は教授でも部長でもないヒラの医長であるが、病院の成り立ちと職務の性格上、消化管病理に関する様々な仕事が津波のように押し寄せてくる。相変わらず行き当たりばったり、出たところ勝負であるが前向きにやっていきたい。恩師、竹岡成名誉教授、服部隆則副学長、岡部英俊教授をはじめとする本学の先生方、「湖医会」の先輩・後輩諸氏に改めて感謝の意を表したい。



滋賀医科大学卒業生であることを誇りに京都大学博士(医学)となり、
おかげさまで、このたび東京工業大学博士(学術)をいただきました。



(独)情報通信研究機構新世代ネットワーク研究センター主任研究員

中川 晋一 (医8期生)

膳所高から一浪 7 期生として入学した時、TS先生は「君たちは、正しく覚えなければならない。考える前に暗記せよ。なぜなら、考えるよりも覚えた事を臨機応変に正しく引き出す能力が医専としての本学の使命だからである。」と言われ、大変ショックを受けた。「発音さえ覚えられないヤツは、マトモな医師になぞなれるはずがない」というのが先生の考えだった。猛烈に反抗し単位が取れずに留年してしまった。医師となり心電図がちょっと読める程度で有頂天になっていた私は、強烈な臨床の洗礼を受けた。考えるなんて百年早い。落ち込む日々。何度も腹に脂汗をかきながら場数を重ね、少しずつできる事が増えた。滋賀医大TS先生の「まず正しく覚えよ」に反抗した自分を本当に恥じた。

京大で、わが国医学インターネットのさがけとなった jpmed の提案、電子メールを用いた健康管理システムの提案を行い 1996 年国立がんセンター研究所に採用された。研究員は全員一匹狼だ。研究のアイデアを奪い合い歯に衣着せぬ批判を行う。その中で情報通信技術をもっと研究したいと感じるようになった。情報系で発表する中でCRL(現在の情報通信研究機構)からの誘い。場を求めて医学系から工学系の研究所へ。すぐに「H11 概算要求の案件準備始めてください。」とメール。

突然 G8、APEC の大臣会合で政府代表としてデモをと、本省課長から指令。強烈なお役所だった。最前線にいることは確かだが研究ではない。強い権限は自分を蝕んだ。突然のグループ解散命令、無為な時間。友人は「お前のやってきたことは何も間違っていない。しかし社会や組織とはそういうものだ。後は君が人間としてどう生きていくかだ。」と。自分の居場所を求めて東工大の後期課程に社会人入学する決心をした。

工学系の必要単位を取得していない私が、理工学研究科の後期課程に入学を許されたのは、指導教官YS先生の超人的な調整力と信用の賜物であった。最初の2年間、研究して挫折。先生は「研究会や国際会議は一切必要ありません。Journal に採録される技術論文だけを早く書いてください。」としかおっしゃらなかった。工学は医学や科学と異なり、「新しい測定方式を考案し、新規性のあるデータを得た」という論旨は、「比較対照とする従来技術の存在しないものは判断できない。」と Reject される。既存の方式に比べ提案方式が性能を向上させるのかを示さねばならない。新規性を規定しにくいインターネットの研究もあきらめた。がんの情報分類にたどり着いた。がんの情報提供文書の構成語を「がんの特徴量」として集め、一般語だけ

よりも精度良く文書解析(形態素解析)すれば、文書分類精度が向上すると考えた。約1万語のがん用語集合を一人で作成した。若干の文書分類精度の向上と、特殊な用語集合の作成方式の提案として技術論文となる可能性が生じた。

それでも査読者から、妥当性を客観的に示せといわれ、滋賀医科大学の同期生のYK先生、AT先生、後輩のTY君、YF教授、KH先輩をはじめとする友人に協力いただいた。途中、急性心筋梗塞(右冠動脈起始部完全閉塞)を発症したが、幸運に恵まれステント挿入で九死に一生を得た。病が癒えた頃、論文が採録(2009年1月)となった。予備審査の後、書き上げた初稿は140ページ、引用文献数は150本近くとなった。手法の新規性ではないので申請学位は「工学」ではなく「学術」とし2月に最終稿を提出した。東工大歴史の中で初めて工学部の後期課程に入学を許された医学博士は文字通り命がけだった。

鮎は大海に出てこそ大きく育つことをこれからも証明していこうと思う。

第49回幹事会

日 時:2009年10月24日(土)
場 所:滋賀医大基礎講義実習棟2F B講義室
出席者:渡辺会長、中島副会長、相見副会長、金子副会長、茶野副会長、
白石副会長、永田幹事、内田幹事、嶋幹事
※幹事114名のうち過半数の出席者70名(出席者8名、委任状62名)があり会は成立。
書 記:奥野(事務局)

主に2009年度の総会に向けての話し合いが行われました。
幹事会で承認された総会用資料は「湖医会」HPをご覧ください。

1. 2008年度事業報告及び決算額について
相見副会長から、資料1～3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 2009年度事業計画及び予算額について
相見副会長から、資料4～5に基づき説明があり、審議の結果、予算案については、来年度の「湖医会」設立30周年記念事業費用として、積立費3項目の計600万円のうち500万円を記念事業等積立費に、100万円をその他の積立費に修正することとし、その他については原案どおり承認された。
3. 会則の改正について
原案(資料6)どおり承認された。
4. 役員改選について
役員選出規程に基づく総会での選出過程について確認があり承認された。

第50回幹事会

日 時:2010年2月23日(火)
場 所:CMC「湖医会」事務室
出席者:渡辺会長、中島副会長、相見副会長、金子副会長、茶野副会長、
白石副会長、西尾副会長、田中幹事、川西幹事、松井幹事
※幹事117名のうち過半数の出席者72名(出席者10名、委任状62名)があり会は成立。
書 記:奥野(事務局)

1. 事務局の運営について
昨年からの事務局の改革状況の報告があり、今後の事務局運営には事務長クラスの採用が必要であることが確認され、大学に対し適任者を要望することとなった。
 2. 「湖医会賞に関する規程」の改正について
公募申請の手続きの明確化と文言の整理を行う改正案の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
改正点:自薦をやめ他薦のみとする。
推薦書の受付期限を5月末とする。
被推薦者の関係書類の提出期限を6月末とする。
 3. 「湖医会」30周年記念行事について
2011年4月に「湖医会」創立30年を迎えるにあたり記念事業の実施について諮られ、5事業案「地方支部会」「奨学金制度」「湖都通信」「求人・求職情報の発信」「湖医会文庫」について説明があり、審議の結果、「ホームカミングデイ」を加えた6事業案とし、実行委員会を設置し事業の具体化を進めていくこととなった。
 4. その他
・看護学科同窓会費のあり方について
看護学科卒業の会員から会費の納入についての質問が寄せられていることについて報告があり、意見交換の結果、看護学科のOBによる委員会等により、会費のあり方及び同窓会の運営について、1～2年をかけ検討していくこととなった。
- 実行委員会には、委員長に渡辺会長、事務局長に茶野副会長が選出され、事業ごとに担当者を置くことが承認された。
- 地方支部会: 全国を5ブロックに分けメーリングリストの作成
奨学金制度: 対象枠、金額の拡大等、現行制度のリフォーム
「湖都通信」: 記念号の発刊
求人・求職情報の発信: マンスリーメールの充実
湖医会文庫: 学生支援の図書、図書館にコーナー設置
ホームカミングデイ: イベントの実施



差し入れありがとうございました!

第62回 応援キャンペーン

「西医体 西コメ等」



男子バレー部の優勝と今年も好成績が生まれました。「西医体・西コメ等」応援キャンペーンへの協力をはじめ学生に声援を送ってくださったみなさんありがとうございました!

悲願の優勝を果たすことが出来ました。これは、普段の練習の成果だけでなく、平素から支援して頂いたOB・OGの方々のお陰です。本当にありがとうございました。(男子バレー部)



先輩方いつも差し入れ、応援ありがとうございました。団体戦は思うような成績が残せませんでしたが、個人戦は今までやってきたことを生かして精一杯頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。(卓球部)



このたびは応援、ご寄付をしていただきありがとうございました。メダル獲得を目標に一年間努力したのですが、ベスト16という結果に終わってしまいました。この悔しさをバネに一年間しっかり練習してリベンジしたいと思っています。これからも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いします。(サッカー部)

今年も寄付を下さり、ありがとうございました。今年の結果を来年に活かせるよう頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いします。(空手道部)

差し入れをありがとうございました。応援してくださった皆様に感謝しています。(合気道)



毎年のご支援ありがとうございます。多くの「湖医会」の先輩方の応援のおかげで猛暑の西医体を乗り切ることが出来ました。本当にありがとうございました。(端艇部)

OB、OGの方々、ご寄付ありがとうございます。今後も良い結果を残せるよう、部員一同精一杯がんばります。(バドミントン部)



振り返ると、部員各々がしっかり目標を持って競技に取り組むことのできた一年だったと思います。西医体では、結果を残せた者も、悔しい思いをした者それぞれがいますが、これからも真剣に陸上競技に取り組んでいきたいと思っています。今後も陸上部に、ご声援とご支援の程よろしくお願いします。(陸上部)

ご支援いただき本当にありがとうございました。次の大会に向けてチーム一となり頑張っていくと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。(女子バレー部)

いつも応援して頂き、またご寄付までくださって、ありがとうございます。残念ながら結果には結びつきませんでした。部員一同、得る物の多い大会でした。これからも頑張っていくので、剣道部をどうぞよろしくお願いします。(剣道部)



今回の西医体では寄附を頂き誠にありがとうございました。より良い結果を出せるよう練習に励んでいきますので、今後とも滋賀医大柔道部を宜しくお願いします。(柔道部)

いつも応援ありがとうございます。今年は静岡県『葛城カントリー倶楽部』にて行われました。今年は完全燃焼することができませんでしたが、この気持ちをバネに来年にむけて部員一同頑張りたいと思っております。これからもご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。(ゴルフ部)

日頃らご支援ご指導をしていただきありがとうございます。今回、硬式テニス部は、男子は2回戦で九州大学に敗退、女子は準々決勝で神戸大学に敗退しました。男女共に目標を達成する事はできませんでした。この悔しさをバネに来年は良い結果を残せるよう精進して参りますので、これからもご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。(硬式テニス部)



暖かいご支援をいつもありがとうございます。部員も増え、良い状態でのぞんだ今年の西医体ですが、初戦敗退という悔しい結果に終わりました。秋からはまた気持ちを入れ直し、滋賀医科大学の名に恥じぬよう頑張っていくと思っております。これからもどうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。(野球部)

若鮎祭

第 36 回



厳しい残暑もようやく和らぎ、木々の葉も色づいてまいりました。先輩方におかれましてはますますご健勝のことと存じ、お慶び申し上げます。さて、今年も若鮎祭の季節が近づいてまいりました。若鮎祭は今年で36回を迎えます。不況と言われ、暗いニュースも多い中、一人ひとりがもっと個性を發揮すれば、世界が変わる！というコンセプトのもと、「彩～shine・your・color～」をテーマに致しました。ご来場の先輩方に、私たちの「彩」を感じていただけたら幸いです。

今年は、特別講演会として第9回『湖医会賞』受賞者の九嶋亮治先生(医6期生)による受賞記念講演会を、滋賀医科大学同窓会「湖医会」との共催で開催いたします。他、『夜回り先生』で有名な水谷修氏による講演会、ホスピス医療で学んだことを通して、命の大切さを小中学生を中心に講義していらっしゃる、小澤竹俊氏による講演会も開催いたします。また、医科大学の特色を生かし、医師のトレーニングに使用する機材などを実際に使用できる、医学体験コーナーも企画しております。

お忙しいとは存じ上げておりますが、ご家族・ご友人などをお誘いあわせの上、是非足をお運びいただきたいと、実行委員会一同心から願っております。

若鮎祭実行委員長 石河慎也

第9回『湖医会賞』受賞記念講演会

10月23日(土) 場所: 基礎講義実習棟 2階 A講義室

『湖医会賞』授与式 13:00～

『湖医会賞』受賞記念講演

13:30～ 九嶋亮治氏

(医6期生、独立行政法人国立がん研究センター中央病院病理科医長)

演題: 「胃生検の小部屋」から



メイン企画

★講演会 場所: 臨床講義棟2階 臨床講義室3

・水谷修氏(夜回り先生) 10月23日(土) 13:00～14:30 「子どもたちと向き合い、子どもたちと明日を生きる」

・小澤竹俊氏 10月24日(日) 13:00～15:00 「苦しみの中でも幸せは見つかる」

★ちびっ子向けコーナー

動物園、緑日、バルーンアート、
なりきりお医者さん・看護師さん

★各種企画

献血、医療体験コーナー、美容(ヘアアレンジ・ネイル)、
整体、フリーマーケット、占い、喫茶モナリザ etc...

ステージ企画

☆10/23(土)☆

《メインステージ》

10:00 開会式

10:30 アカペラ

11:00 お笑い運コロシウム

12:00 演舞

12:30 軽音LIVE

14:30 滋賀医の平均人間

15:30 原石を探せ!

16:30 今井志保子 Talk Show

17:00 Mr. & Ms. 中間発表

18:00 KOE

《サブステージ》

10:30 オープニング

11:00 LIVE ART

12:00 そっくりさん選手権

13:00 じゃんけん大会

13:30 紙飛行機

14:00 あなたの彩は

15:00 大学デビュー

☆10/24(日)☆

《メインステージ》

10:00 アカペラ

10:30 うたへた

11:00 魅男塾

12:00 サムコレ

12:30 Jaflican dance

13:00 お笑いLIVE

14:00 ビンゴ

15:00 滋賀医すもう大会

16:00 アカペラ

17:00 Mr. & Ms. FINAL

18:00 フィナーレ

《サブステージ》

10:30 大胸筋

11:00 大道人

12:00 三輪車レース

13:00 ○×クイズ

14:00 ♂フェロモン対決

★詳しくは、<http://www.shiga-med.ac.jp/~wakaayu/>をご覧ください！！★



大学からの
ご案内

琵琶湖プライマリケア・リフレッシャーコース開催のご案内

(プライマリケア医の生涯学習促進を目的とした実用的なセミナーです!)

テーマ:心房細動に出会ったら

講師:山下 武志 先生(財団法人 心臓血管研究所 常務理事・研究本部長)

日時:平成22年11月28日(日) 午前9時55分~午後4時30分

(受付開始 午前9時30分)

場所:ピアザ淡海 会議室

大津市におの浜1丁目1番20号 Tel:077-527-3315

参加日:医師 10,000円、研修医(初期) 1,000円

※テキスト代と昼食代を含みます。当日現金でお支払いください。

申込先:滋賀医科大学学生課教育支援係(上野)

E-mail:hqgaku@belle.shiga-med.ac.jp

Tel: 077-548-2068 Fax: 077-548-2799

申込締切:平成22年11月19日(金)

※講師への事前の質問を歓迎します。上記の申込先へご連絡ください。

※本企画は日本医師会生涯教育制度指定講習会(5単位)に認定されています。

(CC 2・42・43・44・62・63・73・78)

主催:滋賀医科大学琵琶湖プライマリケア・リフレッシャーコース事務局

詳しくは本学ホームページまで

<http://www.shiga-med.ac.jp/oshirase/101128.html>

2010年度 滋賀医科大学看護学科 保健師部会からのお知らせ

初秋の頃、保健師の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様は日々それぞれの現場でご活躍されていることと思います。

今年度も恒例の保健師仲間との交流会を開催します。是非ご参加ください。

日時:平成22年12月11日(土)

18:00~

場所:居酒屋 味峯(みほ)

(八条口店)

お知らせ

「湖医会」年会費の自動引き落とし

口座振替をご利用の方は10月12日、
一般VISAカードの方は10月15日となります。



なお、便利な口座引き落としのご利用を
ご希望の方は事務局までご連絡ください!!



お詫びと訂正

湖都通信63号(表紙)で掲載いたしました
「西医体・西コメ等」応援の寄附に誤りが
ございました。

お詫びして訂正させていただきます。

(誤) 9名の会員から、87,000円の寄附
(正) 10名の会員から、96,000円の寄附

ありがとうございました。

総会の委任状は、メールまたは同封封筒にて
必ず返信下さい。 e-mail: koikai@koikai.org

ご協賛
ありがとうございます

アストラゼネカ株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社 (順不同)